

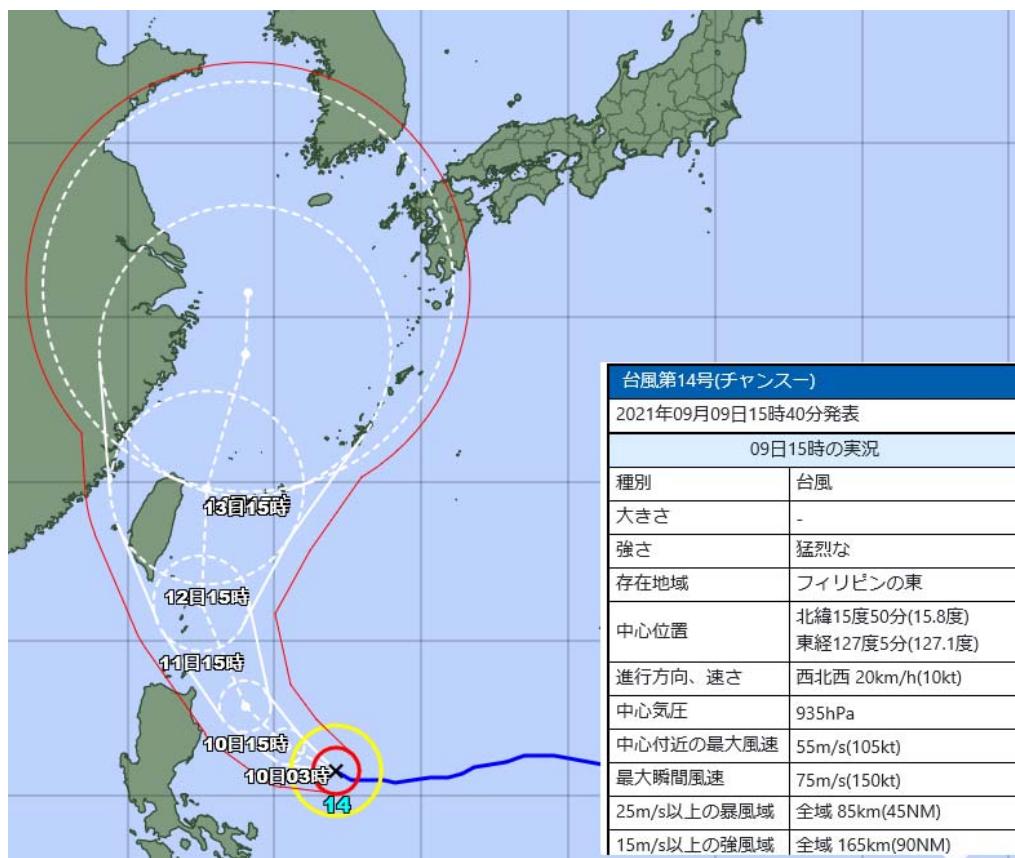
(表題) 台風第14号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

気象庁によると、猛烈な台風第14号は、9月9日15時にはフィリピンの東の北緯15度50分、東計127度05分にあつて、1時間におよそ20キロの速さで西北西に進んでいます。

- 現在の中心の気圧は935ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は55メートル、最大瞬間風速は75メートルで、中心から半径85キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。
- 今後の進路予報では、そのままの勢力を維持しながら10日にフィリピンの東、11日に石垣島の南南西約400キロ、12日に東シナ海に到達する見込みであり、来週以降は佐賀県にも少なからず影響があるものと思われます。
- このため、台風に伴う農作物等被害対策を別添のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。

【参考データ】



佐賀県農業技術防除センター

．水稻

1．生育ステージ

- (1) 山間早植え水稻 : 収穫期
- (2) 普通期水稻
 - 「夢しずく」 : 登熟後期～成熟期
 - 「ヒノヒカリ」 : 登熟中期
 - 「さがびより」 : 乳熟期
 - 「ヒヨクモチ」 : 穂揃期

2．技術対策

(1) 山間早植え水稻

「コシヒカリ」は成熟期を迎えており、台風通過後は排水し、できるだけ早く収穫する。台風前に収穫できる圃場は速やかな収穫に努める。

「夢しずく」の圃場では、登熟後期となっており倒伏する可能性が極めて高く、圃場が落水状態であれば急性萎凋する可能性もあるため、湛水し蒸散増加に対応できるようにする。台風通過後は、落水後、間断灌水とする。また、倒伏した圃場では、排水に努め、できる限り引き起こし、登熟促進と穂発芽防止に努める。

(2) 普通期水稻

「夢しずく」

成熟期となっている圃場では、台風前にできるだけ収穫に努め、台風通過後は排水し、できるだけ早く収穫する。

登熟後期の圃場では倒伏する可能性が極めて高く、圃場が落水状態であれば急性萎凋する可能性もあるため、湛水し蒸散増加に対応できるようにする。台風通過後は、落水後、間断灌水とする。また、倒伏した圃場では、排水に努め、できる限り引き起こし、登熟促進と穂発芽防止に努める。

「ヒノヒカリ」・「さがびより」

強風による登熟阻害（乳白米、着色米などが増加し、品質の低下と共に千粒重も小さくなる）が懸念されるため、水田は深水にして水稻を保護する。また、倒伏したものについては、できる限り引き起こし、草勢の回復を図る。

「ヒヨクモチ」

強風による稔実阻害（不稔、白穂などの発生）や登熟阻害（籾ズレにより病気や雑菌の感染）が懸念されることから、稲体の振動を少なくするため、できるだけ深水管理に努める。台風通過後は間断灌水に切り替える。

台風通過後、曇天が続く場合は、穂枯れや穂いもちが発生しやすくなるため、発生には十分注意し、上位3葉に葉いもちの病斑があれば防除を実施する。

(3) 共通対策

台風前は深水管理を行うが、通過後は汚濁した水を排除し、新しい水と入れ換える

など、水稻が回復するよう水管理に留意する。特に、海水の流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と換える。その後、掛け流しまたは少なくとも2～3回は水を換え除塩し、生育の回復に努める。

台風通過後は白葉枯病の発生や被害が拡大する可能性が高い。発生が認められた場合、水稻に露が付着している時間帯は圃場に入らないようにする。

台風通過後は受光体勢が乱れ、紋枯病及びウンカ等が多発する可能性があるため、台風通過後、発生には十分注意する。

冠水した圃場は、圃場水を入れ換え、根の機能維持に努める。

．大豆

1．生育ステージ

- (1) 6月下旬に播種された圃場は、生育量も大きく、着莢期～粒肥大期である。
- (2) 7月中下旬頃に播種された圃場は、開花期～着莢期である。

2．技術対策

- (1) 台風による大豆の被害は茎の損傷、葉の裂傷等があり、生育量・風速によっては倒伏する。倒伏した場合は、収量や品質が低下するので、できるだけ引き起こす。
- (2) 台風通過後は、葉の損傷による葉焼病に注意するとともに、紫斑病についても的確に防除を行う。
- (3) 有明海沿岸では、潮風による塩害の恐れ（大豆の生育及び収量は、塩分の影響が極めて大きい。大豆は土壌中の塩分濃度が、0.03%でも著しい被害を受け、0.125%では収穫皆無となる）があるため、潮風を受けた場合は、台風通過後、散水し塩分除去に努める。
- (4) 降雨量が多くなれば、生育量が小さい圃場では冠水が想定される。冠水時間が長引けば、被害が増加するので速やかに排水に努める。

．野菜

1．生育ステージ

- (1) 施設野菜の主要品目であるイチゴ、キュウリ、トマト、ナスは、多くは定植準備期であるが、一部の作型では収穫期、定植後～活着期の品目もある。イチゴは、育苗ベンチ等で育苗を行い、苗の仕上げの時期である。
- (2) 雨よけ野菜の主要品目であるハウレンソウとコネギは、播種時期の違いにより播種期から収穫期まで多くの生育ステージがある。アスパラガス、夏秋キュウリ、ピーマンは収穫期である。
- (3) 露地野菜の夏秋ナスは収穫期、キャベツ、ブロッコリー、レタスは育苗期から定植直後または生育初期、タマネギは苗床の土壌消毒時期である。

2. 事前対策

<イチゴ>

- (1) 強い雨風による病原菌の飛散や長時間の濡れによる感染率の上昇が懸念されるので、直ちに発病株を除去、処分するとともに、台風接近前に殺菌剤による予防散布を行う。特に炭疽病は既に注意報を出しているとおりに感染株が多い傾向にあるので、必ず予防散布を行う。
- (2) 苗は寒冷紗等でべたがけを行い、寒冷紗が吹き飛ばないように直管パイプやブロック等で押さえる。
- (3) 台風が接近した場合、雨よけ用のビニルや遮光資材は取り除く。
- (4) 育苗床は排水溝を再度確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- (5) ビニルを被覆したままのハウスで密閉が可能なハウスはハウスバンドを締め直し、台風の強さによっては、除去できるように準備を行う。密閉が不可能なハウスは早めにビニルを除去する。
- (6) 加温機、自動開閉装置等の装置や関連施設の対応も十分に行う。
- (7) 高設栽培システムで、天井ビニルを除去している場合、ベッド間を直管パイプ等で連結し倒伏を防止する。
- (8) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<施設キュウリ・トマト等>

- (1) 密閉するハウスはハウスバンドを締め直し、妻面付近の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- (2) 栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。換気扇を回す可能性がある場合は停電に備え発電機を準備しておく。
- (3) 育苗中のハウスは密閉できるように準備する。また、断水や停電時に灌水が不可能なハウスは、灌水用の水をハウス内に確保しておく。
- (4) 栽培が終了したハウスは早めにビニルを除去する。
- (5) 他はイチゴの(4)(6)(8)に同じ。

<雨よけ野菜>

- (1) アスパラガス、コネギ、キュウリ等は、収穫可能なものは早めに収穫しておく。
- (2) 栽培中のハウスは、強風によるビニルの破損を防ぐため、防風ネットや寒冷紗等による被覆、ラセン杭とハウスバンドの点検・補強、破れ部分の補修等を行う。
- (3) 雨よけハウスは風に強い構造でなく、通過時の風の強さや向きによってはビニルを緊急に除去する必要があるため、直ちに対応できるよう事前に準備しておく。
- (4) アスパラガスは、強風による茎葉の損傷を軽減するため、支柱が抜けないう補強するとともに、ネットをしっかりと張っておく。また、台風被害による草勢低下を防ぐため、事前に追肥しておく。
- (5) 播種予定のコネギ、ホウレンソウ、ミズナ等は、台風が通過した後、直ちに播種できるよう圃場を古ビニル等で被覆する。
- (6) 大雨に備えて排水溝の詰りがないうか確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- (7) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<露地・夏秋野菜>

- (1) 果菜類は、収穫可能なものは早めに収穫しておく。
- (2) 果菜類は、強風による茎葉の被害を軽減するため、支柱や防風ネットの補強を行い、伸長した側枝は支柱にしっかり誘引する。また、台風被害による草勢低下を防ぐため、事前に追肥しておく。
- (3) マルチは強風で飛ばされないようにしっかり止めておき、必要に応じて畦間湛水を行う。
- (4) 土壌消毒を行っているタマネギ苗床は、被覆資材が強風で飛ばされないように海苔網等で抑える。
- (5) セルトレイやポットで育苗中の苗は、被害を避けるため倉庫等に搬入する。
- (6) 定植直後のキャベツ等は、圃場を不織布等でべたがけする。
- (7) 大雨に備えて排水溝の詰りがないか確認し、緊急時に備えて強制排水の準備を行う。
- (8) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

3 . 事後対策

<イチゴ>

- (1) 台風の通過後、被覆していた寒冷紗等を直ちに取り除く。
- (2) 育苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。
- (3) 茎葉の損傷等により病害発生の恐れがあるので、薬剤散布を必ず行う。また、同時に草勢回復のために葉面散布剤を混合する。
- (4) 茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- (5) 苗の傷みがひどい場合は、直射光線を防ぐため、寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。

<施設キュウリ・トマト等>

- (1) 茎葉の被害が確認された場合、もしくは浸水した場合は、イチゴの(2)(3)(4)と同じ。
- (2) 茎葉の被害が著しい場合は、整枝、切り戻し、植え換えを検討する。
- (3) 被害がなかった圃場でも、葉面散布剤を混合した薬剤散布を行う。
- (4) 防虫ネットが破損した場合は早急に修復する。

<雨よけ野菜>

- (1) 天井ビニルを除去した場合は直ちに展張し、ビニルの破損部があれば補修を行うが、換気面積をできるだけ広く確保し、茎葉の乾きを促進する。
- (2) 軟弱野菜類でべたがけをしたところは、台風通過後は早急に資材を取り除く。
- (3) 茎葉の損傷や泥はね等により病害発生が懸念されるので、低濃度の薬剤散布を行う。このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。
- (4) 茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

<露地・夏秋野菜>

- (1) 茎葉や果実が風害で損傷した場合は損傷部を除去し、草勢回復を促す。
- (2) 畦間に湛水している場合は、過湿による根傷みを防ぐため、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げて余分な水分の蒸発を促す。
- (3) 茎葉の損傷や泥はね等により病害発生が懸念されるので、低濃度の薬剤散布を行う。

このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。

- (4) 支柱や誘引資材が被害を受けた場合は補修を行う。
- (5) 倉庫等に移動した苗は、急激な環境変化を避けるため、寒冷紗等で被覆したハウスに移す。
- (6) キャベツ、ブロッコリーの定植予定時期が大幅に遅れる場合には、灌水のみで栽培し、定植前に液肥を施用する。
- (7) 土壌消毒を行っているタマネギ苗床のビニルが剥げた場合は、早急に補修を行い、雑草種子等の混入を防ぐ。

・花き

1．生育ステージ

<施設栽培>

- (1) 電照ギクは生育初期から出荷期のものがある。
- (2) バラは収穫期となっている。
- (3) カーネーションは生育期であり、中山間地は出荷期となっている。
- (4) トルコギキョウは定植から生育初期で、中山間地では出荷期となっている。

<露地栽培>

- (1) キク、シンテツポウユリ等は生育期から出荷期のものがある。

2．事前対策

<施設栽培>

- (1) 花き栽培の大部分の施設は、ビニルパイプハウス、またはAPハウスであり、台風による被害を最小限度にするためには、次のとおり点検補強を行う。
ハウスバンドの固定確認を行い、伸びているものは張り直す。
天井ビニルを防風ネットや海苔網等で押さえる。
らせん杭の設置間隔や機能が十分であることを確認し、らせん杭の強度を高める。
栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。

<露地栽培>

- (1) 倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。
- (2) 圃場の周囲に排水溝を掘り、排水条件を良くする。
- (3) 収穫できるものは早めに収穫する。

3．事後対策

<共通>

- (1) ハウスでビニルが破損した場合は、早急に修理を行い、雨がかからないようにする。また、電球が切れていないか電照の確認を行う。
- (2) ハウス内に水が入った場合は、強制排水により早急に排水を図る。

- (3) 倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。
- (4) 定植後の苗など傷みがひどい場合は、強日射を防ぐため、寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。
- (5) 茎葉の損傷等により病害の発生の恐れがあるため、殺菌剤の散布による病害の発生抑制や液肥の葉面散布により生育の回復に努める。

・果樹

1. 生育ステージ

<カンキツ類>

- (1) 露地カンキツ類は果実肥大～着色期であり、一部極早生で収穫期に入っている。
- (2) 施設中晩柑類は果実肥大期である。

<落葉果樹類>

- (1) ナシは晩生種の収穫期である。
- (2) ブドウは露地栽培が収穫期である。
- (3) カキ、キウイフルーツは果実肥大期である。

2. 事前対策

<露地カンキツ類>

- (1) 強風により枝葉や果実が傷つき、かいよう病が発生しやすいため、台風襲来前(1～7日前)に銅水和剤等の薬剤散布を行う。
- (2) 高接ぎ更新樹や開張性の強い品種では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (3) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- (4) マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資材が飛ばされないようにしておく。
- (5) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

<施設栽培>

- (1) ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスバンドの締め直しを行う。
- (2) 強風時にはハウスの強度を高めるため、完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
- (3) パイプハウスの強度は一般に風速30m/sとされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を守るために、ビニルを除去する。

<落葉果樹類>

- (1) 成熟期を迎えている樹種で収穫可能なものは収穫する。

- (2) 果樹棚の点検を行い、破損箇所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで、果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーを増設し果樹棚の引き下げを行う。
- (3) 枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。
- (4) 幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (5) 強風雨によりカキ炭疽病等の発生が増加するため、台風襲来前に薬剤防除を行う。

3. 事後対策

< 露地カンキツ類 >

- (1) 潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- (2) 強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こし支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して樹勢の回復を促す。
- (3) 強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。
- (4) マルチ栽培で被覆資材がはがされた場合は、直ちに修復するとともに、晴れ間をみて資材を開放し土壌の乾燥に努める。

< 施設栽培 >

- (1) ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。
- (2) ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。

< 落葉果樹類 >

- (1) 落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。
- (2) 果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。
- (3) 倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。
- (4) 強風によって損傷した枝葉は、カキ炭疽病等をはじめとした病原菌が感染しやすくなっているため、台風通過後は早急に薬剤散布を行う。

・ 茶

1. 生育ステージ

現在は、秋芽の生育時期である。

2. 事前対策

- (1) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回して集排水溝を点検し、不具合があるところを整備する。
- (2) 8月の豪雨で法面の表土が崩れているところは、土嚢やビニールシート等を用いて覆い、応急処置を行う。
- (3) 幼木はマルチのおさえを確認し、強風でマルチがはがれないようにする。

- (4) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための清水を確保しておく。

3. 事後対策

- (1) 潮風害の発生が懸念される茶園では、台風通過後なるべく早く清水を散布し、付着した塩分を洗い流す。なお、潮風害が発生した場合、被害後直ちに整枝や剪枝は行わず、指導機関へ相談して対応する。
- (2) 防霜施設の傾き、マルチのはがれ、株の浮き上がり等を点検し、被害がある場合は速やかに元の状態に戻す。

. 畜産

1. 事前対策

< 畜舎・家畜 >

- (1) 畜舎及び堆肥舎などの点検・整備を行い、風雨の侵入を防止する。
- (2) 畜舎周辺の排水溝を清掃し、排水対策を行う。
- (3) 畜舎周辺の施設、飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように固定を強化する。また、ロールベールの倒壊や稲わら等の飛散防止に努める。
- (4) 庇陰樹の整枝、板、スレート材などの飛来原因物を整理する。
- (5) 夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。
- (6) 停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する。(1頭(羽)当たり必要量(L/日): 50(肥育牛)~150(乳牛)、豚: 30、鶏: 1)

< 飼料作物 >

- (1) 飼料作物は収穫できるものはすみやかに収穫する。
- (2) WC S用稲の収穫に当たっては、生育ステージに十分留意する。

2. 事後対策

< 畜舎・家畜 >

- (1) 家畜の観察をこまめに行い、肺炎等異常家畜の早期発見に努める。また、台風通過後の高温対策のため換気等に十分気を付ける。
- (2) 畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹼 500~1000 倍液を $1\text{L}/\text{m}^2 \sim 2\text{L}/\text{m}^2$ 噴霧し、あるいは消石灰を散布して消毒する。
- (3) 新鮮な飲料水、腐敗やカビのない飼料を確保し、濡れた敷料は、新しいものに交換する。
- (4) 安全確認後、速やかに被災状況を確認し、被害施設の補修、修繕や家畜の事故につながる飛来物などの除去を行う。また、電気配線等の切断や漏電に注意する。

< 飼料作物 >

- (1) 刈り取り間近のものや被害し倒伏したソルゴーなどは早めに収穫・調製する。
- (2) 圃場を巡回し、収穫に支障のある飛来物は早めに取り除く。
- (3) 倒伏したものを青刈り給与する場合は、刈り取り後風乾して泥土を落として給与する。
- (3) ロールベールサイレージ等のラップが破れた場合は、破損部分を直ちに補修し、品質低下、腐敗等を確認し、早めに家畜に給与する。